

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

〈研究ノート〉

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

付『詩学大成抄』書名索引稿

松尾肇子

『詩学大成抄』は、『詩学大成』の和文の抄物である。『詩学大成』は、作詩のための通俗類書で、南宋朝あるいは金朝に編纂され、その後増補改訂を繰り返しつつ元朝に最も流行した。その流行は日本にも及び、林槿編の至正十五年翠巖精舍刊本『聯新事備詩学大成』三十巻が覆刻されている。本稿は、『詩学大成抄』中に見える書名の索引を作成するなかで気づいたことを備忘するものである。

先に『詩学大成』の書誌の概略を確認する。現存するテキストは二系統に分かれる。成立が早いのは、毛直方編『新編増広事聯詩学大成』三十巻(以下、毛本と略称する)で、元・至順三年(一三三三)、至正二年(一三四二)、同十四年(一三五四)、明前期刊本がある。これを改編増補した林槿編『聯新事備詩学大成』三十巻(以下、林本と略称する)にも、元・至正十五年(一三五五)、明・永楽六年(一四〇八)、宣徳元年(一四二六)の刊本が確認できるといふ。この二系統は、分類の標題や収録する詩句にも出入りが甚だしい。そもそも構成もやや異なっており、毛本では天・地・人・物の四部に大分類し、その下位を天文・時令等の「類」に分ける。林本には天地人物の四部はなく、毛本の類に相当する「門」に分かれており、門名にも出入りがある。各門類はさらに以下のような条目に分かれる。

○毛本…叙事、故事、大意、起・聯・結
○林本…事類、散対、起・聯・結

毛本の「叙事」は、当該語彙の釈義を示し、小字双行で諸書を引用して一般的な説明を施す。ただし「叙事」を置かない綱目もある。右に毛本の「叙事」に対して林本が空欄になっているのは、対応する項目が無いことを示している。毛本の「故事」と林本の「事類」とは対応し、典拠となる諸事を収め、各故事に小字双行の出典を加えている。さらに毛本「大意」と林本「散対」とが対応し、二、四字の対語を列記し、両本とも最後に「起」「聯」「結」に分けて五言七言の対句を収録する。作詩のための類書とされるゆえんである。いずれも門名等は大字、その下はすべて小字双行であるが、本稿では区別せず掲載する。次に『詩学大成抄』の書誌の概略を記す。『詩学大成抄』を著わしたのは、室町後期、京都五山第二位の相国寺にいた惟高妙安(一四八〇～一五六八)という学僧で、晩年に『中興禅林風月集』『詩学大成』『韻府群玉』の三書に抄を施した。彼がその学識の集大成を試みたと言つてよい。つとに柳田征司博士の大冊『詩学大成抄の国語学的研究』があり、該書は永祿四年(一五六二)頃の成立と推定されている。ただし、『詩学大成抄』は『詩学大成』全巻を講釈したものではない。毛直方本で言えば天部・地部の部分しかなく、抄は元来これらについてのみ行われたと思われる。

『詩学大成抄』に刊本は存在せず、現存する写本は、外題に『詩学大成抄』とする市立米沢図書館所蔵の十冊本(以下、米沢本と略称)と、

外題を『大成抄』とする西尾市岩瀬文庫所蔵の五冊本(以下、岩瀬本と略称)の二本である。いずれも巻頭内題は「幼児乳臭編」とする。

両本はどちらも完本ではなく欠冊があり、両本ともに収録されるのは天文部・地理門・時令門であるが、内容には若干の相違がある。また米沢本の郊園門・地理門・城闕門・祠宇門、岩瀬本の節序門は、それぞれ一方にしか存在しない。またその際に使用した『詩学大成』も一貫しておらず、柳田氏は、同類諸本の取り合わせ本かと推定している。講釈の態度は、「叙事」は原文に沿って進め、そこに引かれる書籍の解説を折々加えるが、「故事(事類)」以下の部分については、項目を適宜拾い出し、比較的自由に講釈したと思われる。その実際の様子を次に見る。まず「叙事」を例に示す。

○霜【叙事】大戴礼霜陰陽之氣也陰氣勝則凝而為霜積名霜者葬也其氣慘毒物皆葬也淮南子霜神名青女高誘注云青女天神主霜雪者白虎通露者霜之始寒則變而為霜(毛本「天部・天文類・霜(二17オ)」、林本に対応箇所無し)

○大戴礼ト云書ニ、霜ハ、陰陽ノ氣ガ、コリカタマツテナル也。積名ト云書ハ、一切ノ物ノ、名ノ心ヲ、シルイタ書ナリ。ソレニハ、霜ハ、喪也ト云ソ。音ガ、ヲナジイホドニソ。霜ノ氣ガ、毒ナリ。一切ノ万物カ、霜ニカレ、ホロブルソ。喪ハ、ホロビテ、ツクル心ソ。ミナニ、ナルソ。(『詩学大成抄』天文部・霜、一47ウ)

次に「故事」から「帆船」を例として示す。

○帆船、瀟湘八景遠浦一(毛本「地部・山川類・浦・故事(六16オ)但し瀟は消に作る」、林本「地理門・沙浦・事類(四3オ)」)
○帆船ルハ、瀟湘ノ八景ノ里ニ遠浦販ノ一景アルソ。釣リ舟ノ晚景ニ、浦々エ販ル舟カ、イクツモ木ノ葉チツテ、浮タ如ナソ。八景ハ北国ノ、燕ノ国ニ、燕山ノ八景アリ。常德府ノ桃源ニモ八景アルソ。皆方輿勝覽ニアルソ。方輿ノ書ニハ瀟湘ノ八景ヲノセタ

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

ニ、名ノ字上下シタリ。字ノチガウタコトアリ。遠寺一ハ、烟寺トシタソ。遠一販帆ハ、帆ノ字ニアリ。帆多トコニ出タナソ。湘ノ八景ノ詩ハ、洪寛範ノ詩アリ。貞和集ニノモノス。石門文字禅ニノツタソ。同本ニハ八景ノ詩、モトカラ多ソ。南禅寺ノ東禅院ニハ八景ノ画ノ屏風アリ。画ハ周文カ筆カ、雲章和尚ノ兄一条ノ太閤ノ歌ヲハ一々御ヨミアツタガ、詩ハ五山ノ名匠タチナリ。北禅瑞仙和尚ハ、瀟湘夜雨ナリ。虞舜不飯天亦泣、飲声洒竹半江ノ秋トアリ。人ノヲボエタ詩ナリ。杜詩ニ、回首叫虞舜、蒼梧雲正愁ト作タ心テ、天亦泣ト作レタソ。雲カ愁テカナシムクセアレハ必涙雨ニナルソ。八景ヲ画ニカキハシムルコトハ宋朝ノ宋復古ト云者也。彦龍ノ白地扇ノ地ニ八景ヲ文ニカイテト人ガコノンデ賛ノ文カケタソ。賛ノ詩モ洪寛範ヨリ初タソ。宣和画譜ヲ考ニ宋ノ文臣宋迪字復古小伝アリ。得テカイタ国ノ名、一タノセタソ。一ノ末ニハ八景一トノセタソ。(『詩学大成抄』郊園門・沙浦、七41ウ)

毛本、林本、『詩学大成抄』はいずれも異なる門に収録しており、『詩学大成抄』が毛本でも林本でもないテキストにもとづいた可能性は否定できないが、瀟湘八景をめぐる詩句や絵画へと話題がひろがっているのは『詩学大成』に沿ったものではなく、惟高妙安の講釈であると考えてよいだろう。

右に見たように『詩学大成抄』中には漢籍が多数使用される。以下に、漢籍への言及を『詩学大成抄』の記述から拾い、次に、十四世紀の禅僧、義堂周信の漢籍利用と比較して十六世紀の惟高妙安の特長を探りたい。

当該語彙の基本知識を収録する「叙事」について、惟高妙安は確認に努めたようで、該書の書誌についての言及があることもあり、当時の具体的な様子が分かる。以下に当該箇所(掲載の冊は漢数字、丁は

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

アラビア数字で示す)を挙げる。五十音順に配し、(一)で筆者による補訂を施す。

- ・温州志 三十卷ナリ(四23オ)三十卷アルソ(十一39ウ)
- ・画系 一冊ノ書ナリ、マレナ書ナリ(二31オ)
- ・楽府 楽府ト云書アリ、十冊アマリ、巻ノ数ハ百卷ハカリアルソ、モト見タソ(九49ウ)
- ・漢雋 二冊アリ、唐本ナリ(二70ウ)
- ・漁隱叢話 三十卷カアルソ(三35オウ)
- ・群書備考 マレナ本ソ、物ノ数ヲ、一ヨリシテ、ソロエテシルイタ、書ナリ(二20オ)
- ・荊楚歲時記 十卷ハカリアルソ(六44ウ)
- ・劍南統稿 七八卷アルソ(二53オ)
- ・五灯会元 詩文マテ入タカアルソ(七47オ)
- ・三体抄 桃源ノ三体、抄ニ一々図ヲシルシテケタソ(五39ウ)
- ・七千藏經 桃源ノ三体ノ抄ニハ図カアルソ(六28ウ)
- ・尋龍秘要集 京ニハナイソ、撰州兵庫ノ禪昌寺ノガ七千藏ナリ(七47オ)
- ・宣和画譜 七冊ハカリアルソ(四16オ)
- ・素書 六七冊アリ…野渡無人度、孤舟終日横ト作タモアリ(二31ウ)
- ・大学中庸 一卷ノ書ナリ、ソツトア(ル)ソ、注アリ(二40ウ)
- ・大平御覽 大学中庸ノ二部ノ書ヲヨマデハソ、一冊ヅ、ノ小卷ノ書(五61オ)
- ・白虎通 千卷ノ書也(一28オ)
- ・文献通考 二冊アリ(五19オ)
- ・碧巖錄 倭国ノ伝ト云カ一冊アリ、三十張ホドアルソ(七39ウ)
- ・抱朴子 十卷ニカズガ百アルソ(九43オ)
- 内篇一百一十五篇ナリ(二43オ)

・楽邦文集 六冊アリ(五7ウ)

・劉史 一卷ノ書アリ(二22ウ)一冊ナリ(二68ウ)

なお、彼自身による抜書き「免塵集」についても

○某カワカイ時ノ抜書ノ名ヲ、刈楚トカイツ。ソノ後ニ免塵トカイツ。六十八カリマデノ抜書、免塵集二百五十冊アツタソ(七30ウ)

と、回想している。

一方、当代を代表する学僧である惟高妙安にして、その書籍を見たことがないと記すことも少なくない。「ミヌ書」「ミヌ本」「ミエヌ」「不見」と記された書籍は以下のとおり。

・園林紀勝(七16オ)・格物論(二11オ)・寰宇記(太平寰宇記)(二45オウ)・漢宮殿ノ疏(二16オ)・関輔記材(林)(九4ウ)・曲略(十一46ウ)・五経要義(四2ウ)後燕録(二38ウ39オ)・古今通論(四1ウ)・粧楼記(十一34オ)・志林(十一28オ)・続齊階(「諧カ」の書入れ)記(十一12オ)・卓異記(五4ウ)・丹陽集(十一23オ)・図記(六18ウ)・董勛問俗(董勛問礼俗)(十一9ウ)・内伝(二24オ)・夢華録(東京夢華録)(十一21ウ)

ここには略記されていると思われる書名が多いので同定は難しいが、「ミヌ本也、名モメツラシイソ」と記する南唐・張泌「粧楼記」のほか、梁・吳筠「続齊諧記」、唐・李翱「卓異記」はいずれも小説であり、書籍の形では渡来しにくいものだっただろう。「園林紀勝」について言う「此書未見也、書籍ツキヌコトソ」の慨嘆には共感できるものがある。

また「内伝」に「黄帝ノ内々ノコトヲ、シルイタ書カ、ミヌ書ナリ」とあるように、内容を推量する発言がある書籍も未見であらう。そのいくつかを記す。

・金門歳節 金門歳節ト云書ノ名カ(十一24オ)

・月令 齊ノ国ノ者カシタ月令カアルゲナソ(五19オ)

・春秋後伝 春秋後語ト云書アリ、コ、ノ後伝ハ、同シ書カソ(二
35オ)

・鮑胎法 鮑胎法ノ三字ハ、書ノ名カ、不決ソ(二12オ)

さらには、日本へは輸入されていないのではないかとすることもあ
る。

・三輔黄図・三輔次録 ドレモ日本エハワタラヌゲナソ(十1ウ・十
2オ)

・四時纂要 梁元帝ノ四時纂要ト云書ヲ作レタソ、コチニハ一タウ
ミヌ本ナリ(六17ウ)

・水志(徐筠) コチエハワタラヌゲナソ(十2ウ)

・朝野僉載 日本へ渡タヤラ、ミヌ本ナリ(十一15オ)

惟高妙安が見られなくとも日本に渡来していた書籍はあるだろうが、
簡単に見られるものではなかったのは間違いない。

『詩学大成』の書名は、義堂周信の『空華日用工夫略集』にすでに
見られる。そこには正中二年(二三三三)から嘉慶二年(一三八八)まで
の記事が収められ、すでに原田正俊氏がその中から書目を抜き出し、
その活動を紹介している。その論考によって概略を記すと、義堂周信
は延文二年(二三五九)鎌倉に入り、僧侶たちに「詩文にかかわるもの、
宋代の高僧、大慧宗杲をはじめとした人物の語録や宋代に編纂された
高僧の言行録、禅宗所用の經典、禅と儒教を論じたもの、清規など」
を講じ、「足利氏満に対しては『貞観政要』を読むことを勧め、」菅
原豊長に「孝経』『政要』の講義を受け、諸寺長老からは、經典・語
録の講義を受けるように指導している。彼が参照した書目には『太
平広記』『釈子資鑑』『編年通論』『北簡文集・詩集』『宗鏡録』『事文
類聚』等がある。康暦二年(一三八〇)には建仁寺に入り、將軍足利義
満に近侍するようになってからは、中国歴代禅僧の事跡を集めた『禅
門宝訓』や經典、『中峯広録』などの語録、儒教の四書(『大学』『中

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

庸』『孟子』『論語』などを論じ、「大陸情報の伝達者」として活動し
たが、「儒学の講義の制限をしていたようである」。

十四世紀の状況を示す右の書目と、十六世紀の『詩学大成抄』に見
られる書名を比較し、惟高妙安の時代との差異を検討したい。

まず、經典や高僧伝、清規などは重なりあう。ただし『詩学大成抄』
では『空華日用工夫略集』に比べて書名全体に占める割合は低く、ま
た『詩学大成』を離れた惟高妙安の講釈中に言及される。それだけ惟
高妙安は自家薬籠中のものとしていたと考えられる。書名で言えば、
經典の『楞嚴經』『円覚經』『金剛經』『法華經』や『百丈清規』、仏教
史の『釈氏資鑑』『五灯会元』、宗論の『宗鏡録』、語録では『碧巖録』
『大慧禅師語録』『中峯広録』等、禅僧の詩文集では雪峰慧空『東山外
集』、敬叟居簡『北磻文集』、覺範慧洪『石門文字禅』、藏叟善珍『藏
叟摘藁』、それに義堂周信編『貞和集』等が重なる。さらに儒教につ
いても四書『礼記』『春秋左氏伝』等、諸子については『莊子』が、
両者に重なる。

文学についてはかなり様子が異なる。『空華日用工夫略集』では、
『六臣注文選』以外は禅僧の作品集にとどまるが、『詩学大成抄』では
多くの別集(個人全集)・総集が見いだせる。就中、唐の李白・杜甫の
別集、『三体詩』『韓(愈)文』『柳(宗元)文』、元詩の選集『中州集』
『風雅集(皇元風雅)』には五山版がある。唐宋を含む『聯珠詩格』や
『古文真宝』といった選集、五山禅林で流行をみた蘇軾・黄庭堅・陳
師道の別集にも言及する。同様に、詩話は、『空華日用工夫略集』で
はほぼ『詩人玉屑』に尽きる。一方『詩学大成』には、「詩話起こり
て詩滅ぶ」と擲擻された宋朝の状況を反映して多数の詩話が収録され、
『詩学大成抄』にも多くの詩話・雜記が見える。『韻語陽秋』『揮麈録』
『漁隱叢話』『青箱記録(青箱雜錄)』『輟耕錄』『夢溪筆談』『容齋
隨筆』はいずれも宋の詩話であり、これらの詩話は禅僧の記事を含ま
ないわけではないが、官界および江湖の人物のエピソード、また詩句

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐる

の背景についての記事を基本とする。詩話類は詩文集の替りとして重宝されていたのであろうか。また『方輿勝覧』は地理書ながら、詩詞を一首そのまま収録する方針をとった。この書籍についても、少ない回数と言及がある。

以上に挙げた漢籍のほか『詩学大成抄』に頻回と言及のある書物には、講釈のため参照に重宝したであろうと思われるものが多い。その一類は『錦繡萬花谷』『事林廣記』『太平御覽』など類書であり、それにも増して言及の回数が多いのは、韻書の形態をとりながら実際には類書的に使用されていた『韻府（韻府群玉）』や『韻会（古今韻会舉要）』、同様に人名辞典としても利用されていた『排韻（新編排韻氏族大全）』である。これらには五山版があり、惟高妙安に限らず当時よく利用された書籍であるが『空華日用工夫略集』には見られない。

同様に『空華日用工夫略集』に無く『詩学大成抄』に有るのは、小説の類と絵画関係の書籍である。

小説では、義堂周信も参照していた小説の類書『太平広記』を、惟高妙安も参照している。ただし『空華日用工夫略集』にはこの書名のみである。一方『詩学大成』は「拾遺記」「十洲記」「神異記」「洞冥記」「穆天子伝」「幽怪録」などの志怪系の古小説を引用することが少なくなく、『詩学大成抄』は『詩学大成』の記載を襲っている。一方、『詩学大成』には見えず『詩学大成抄』にのみ提示される明朝の書籍がある。

○雁ガソラヲ、トンデ、天下一人ノ、四字ヲアラワイタコトアリ。
蘇武カ一人、エビスノ国ニ、イキテ、居タト云コトヲ、ミヤコノ者ニ、シラセウドテ、アツタト云コト、笑海ト云書ニアルソ。笑海ノ書ハナイコトヲツクリワイ草ニセウドテ作タソ。マコトハナイコトソ。（八13ウ）

○効顰集ニヤラ、阿房宮ト秦ノコトヲ云ニカイトソ。（九3ウ）
「笑海（笑海叢珠か）」「効顰集」はいずれも俗書で、当時最新の輸入

書であったものと推測される。

美術関係の書籍は『空華日用工夫略集』にはそれと思われるものが見えない。『詩学大成抄』でも二項目に限られるが、どちらも長文である。書名の部分を中心にみてみよう。

○春潮帯雨晚来急、野渡無人舟自横、…宋ノ徽宗皇帝ハ、画上手ソ。サルホドニ、画ニスカシムタソ。宣和年中ニ、画ヲ以テ、天下ノ士ヲ、進士及第サセラレタソ。…サキ、カラスノ、舟ニトマリ、船頭カフネニコシカケテ笛ヲナガウ吹クハ、人ノワタル者ナウテ、船頭セウズコト、ナサニ、アゲヒザデ、ナガ笛ヲ、吹タソ。此ノ画ガ、三千人ノ進士ノ中ニ、第一ニスグラレテ、及第シタソ。カウカイト画カキノ名ハ、ノセヌ。此コトヲシルイタ書ハ、画系ト云ソ。一冊ノ書ナリ。マレナ書ナリ。画ノコトシルイタ書モ、多ソ。画断ト云イ、図画見聞志ト、ト云イ、図絵宝鑑ト云イ、宣和画譜ト云ツレ、イカホドモアルソ。宣和ノ一ハ六七冊アリ。野渡無人ノ題テ及第シタコトハ、ナイカト思ソ。宣和ノ一モミタソ。野渡無人度、孤舟終日横ト作タモアリ。（二31ウ）

『宣和画譜』『画系（画継か）』『画断』『図画見聞志』『図絵宝鑑』があげられ「イカホドモアルソ」という。当時の日本人の中国絵画に寄せる関心の高さが窺える記事であるが、その背景は、

○南禅寺ノ東禅院ニ八景ノ画ノ屏風アリ。画ハ周文カ筆力。…宣和画譜ヲ考ニ、宋ノ文臣宋迪、字復古、小伝アリ。得テカイト画ノ名、一タノセタソ。一ノ末ニ、八景一トノセタソ。（七41ウ）
とあるとおりで、寺内にも絵画作品は多くあり、水墨画等が盛行した当時の状況が考えられる。

以上に述べたとおり、『詩学大成抄』と『空華日用工夫略集』との差異には、時代的背景と、それに伴う二人の関心のありどころの相違とがあることが指摘できる。惟高妙安が『詩学大成抄』執筆後に『韻府群玉』を抄した『玉塵抄』の引用文献を調査した李承英氏は、「そ

の多くは『韻府群玉』からそのまま引いたものであり」「惟高妙安独自の引用文献」「は、『玉篇』『事文類聚』『排韻』『韻府群玉』『蒙求』『礼部韻略』『聚分韻略』などである」という。『詩学大成抄』も傾向を同じくするが、『詩学大成』という書物の性格によるものだろう、引用文献の種類は更に豊かであり、惟高妙安独自の引用文献もまた種類が多く、彼の学識、当時の学問の実態を窺うには好適な資料だと言えよう。

はなはだ不十分なものだが、最後に書名索引稿を付録する。索引に挙げたものには書名のほかにも作品名・篇名が混在しているものと思う。また、惟高妙安の学問をうかがうには、作品名・篇名・人名も合わせて採らなければならないのだが、現時点での稿本として掲載する。御示教を賜りますようお願いします。

本誌に「校本詩学大成抄」を連載させていただいていた間、輪読の席で小林幸夫教授から、大島氏ともども輪読とは別に論文にするようにと、折々に声をかけていただいた。二人ともなかなか形にならなかったことを申し訳なく思っている。輪読は、小林教授が「おもしろいなあ」と感嘆し中断することもしばしばだった。教授には御指導、ご教示いただきたいことが沢山あったのだが、楽しく、また得ることの多い時間がこのように短いとは思ひもかけないことだった。小林教授から叱られること、間違いないのだが、「校本詩学大成抄」を休載とすることをお許しいただきたい。

注

- 1 柳田征司『詩学大成抄の国語学的研究』清文堂出版、一九七四年。
- 2 『太平寰宇記』は明治初期に清国公使が日本に伝わる漢籍を覆刻した『古逸叢書』に収録され、中国へ逆輸入された。
- 3 原田正俊「日本中世における禅僧の講義と室町文化」東アジア文

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

化交渉研究第二号、二〇〇九年三月。

4 『空華日用工夫略集』では「釈子資鑑」。同様の文字の異同は一々指摘しない。

5 李承英『玉塵抄』における引用文献―『韻府群玉』との比較―筑波応用言語学研究十号、二〇〇三年十二月。

『詩学大成抄』書名索引稿

凡例

- 1、本索引は、見出しに『詩学大成抄』に見られる書名を掲げた。ここでの書名は、抄に「〜ト云書」などと記されているものを含めたので、篇名・作品名に当たるものを含む。「杜詩」「谷詩」や人名は採らない。
- 2、柳田征司『詩学大成抄の国語学的研究 影印編』（清文堂出版、昭和50年）を底本とし、書名ごとに「(漢数字)冊(アラビア数字)丁オ/ウ(表裏)」で示した。同一の冊については、丁および表裏のみを示し、コンマで区切った。同一の丁に複数回見える場合は特に示さない。「岩五」は、底本末尾に置かれた岩瀬本第五冊を示す。
- 3、略称であることがはっきりしていたり詩学大成を参照できたりして、書名を補訂できたものには〔 〕に書名を掲げ、注のみが挙げられていたり、表記が揺れていたりする場合は、必要に応じて()で補った。
- 4、『詩学大成抄』に作者名を挙げており、それが必要と判断したものには()で作者名を補った。
- 5、見出しは初めの漢字二字を音読して、五十音順に配列した。また常用字体をもちいた。
- 6、本索引は松尾が作成したもので、誤りは少なくないと思う。諸先生の御批正を賜りますようお願い申し上げます。

『詩学大成抄』に見える書籍をめぐって

あ 阿含経	五12オ, 岩五24オ
阿弥陀経	岩五48オ
い 異苑(劉敬叔)	岩五14ウ
一切経	六38ウ, 七47オ
異聞集	岩五42ウ
韻会〔古今韻会挙要〕	二4ウ・29ウ・85オ・89ウ・97ウ, 三14ウ・20オ・53ウ・68オ, 四9ウ, 五27オ・49ウ・73オ, 七12ウ・16オ・24ウ・28ウ・29ウ・43オ・44オ, 九59ウ, 岩五47ウ
韻語陽秋	岩五29オ
韻書	二9オ・18オ・48ウ・91ウ, 岩五45ウ
韻府〔韻府群玉〕	一14ウ・16オ・17オ, 二71オ・102オ, 五20オ・69ウ・73オ, 七24ウ・26オ・28ウ・29オ・34オ・43オ, 九6ウ・49オ, 十14ウ・岩五22オ
う 雲林異景志	六18ウ
え 永嘉集	十23ウ
影灯記	岩五14ウ
潁浜遺老伝	七6オ
画観音経	一52オ
易	二59ウ, 三5ウ・21ウ, 六29ウ, 十1ウ
淮南子	一48ウ・59オ, 三19ウ・21オ・78ウ, 四19オ, 八22ウ・24オ・29ウ・30オ, 十6ウ, 岩五47ウ・51オ・51ウ
円覚経ノ集解	五12ウ
烟花録	一15オ
援神契	三43ウ
園林紀勝	七16オ

お	温州志	四23オ, 岩五39ウ
か	海嶠志	三34オ
	海溪文集	一36オ
	外経録	二48オ
	開元遺事	一21ウ, 三79ウ, 五5オ, 六44オ, 岩五23ウ
	開成承詔録(李石)	七48ウ・49オ
	海潮〔海潮図経〕	三34オ
	海録碎事	十22ウ
	下学集	四24オ
	格物論	二11オ
	画系	二31オ
	花上集	三7ウ・75オ, 九19オ
	画断	二31ウ
	鷗冠子	五6ウ, 八24オ
	鞞鼓録(明皇)	五7オ
	河図	三41ウ
	楽府〔楽府詩集〕	九49オ
	華陽国志	二34オ・34ウ
	華陽録	三69オ
	寰宇記〔太平寰宇記〕	二45オ・45ウ
	感応編	六19オ
	漢旧事	岩五20オ
	漢宮殿疏	二16オ
	管子	八2ウ, 九59オ
	韓詩外伝	三73オ
	漢書	一29ウ・53ウ, 二1オ・20ウ・44オ・45オ・59オ・60オ・79オ・84ウ・85ウ・86オ・86ウ・97ウ, 三3ウ・18ウ・19ウ・32ウ・44ウ・46オ・48オ・73オ, 四12オ, 五1オ・3オ・7オ・8ウ・53オ, 六20オ・23ウ, 七2ウ・21ウ・22ウ・35ウ, 八1ウ・2オ・2ウ・5ウ・10ウ・23オ・29ウ, 九45オ, 十10オ, 岩五14オ・26オ, *「前漢書」を参照
	漢雋	二70ウ
	鴈塔西域記	九29ウ
	観音経	二24ウ, 七20オ
	韓文	一42ウ, 二9オ, 三68ウ, 四4オ, 五6ウ・62オ・77オ, 八24オ・32ウ, 岩五6ウ
	関輔記材→関輔記林	
	関輔記林	九4ウ・5オ
	翰墨全書	一1ウ・11オ・20オ, 五12オ, 六7オ・46ウ, 九2ウ・15オ・38ウ, 十28ウ, 岩五40オ
き	揮麈録	三74オ
	魏書	岩五36ウ
	紀年録	二43ウ

宮室志要	九1オ
虚蔵経	二48ウ
虚堂録	一5オ
漁隱叢話(胡荅溪)	一51オ, 三35オ・35ウ
鄭中記	五52ウ
曲略	岩五46ウ
玉壺清話	三80オ
玉燭宝典	五19ウ, 六26ウ, 岩五2オ
玉泉記	五16ウ
玉篇	七28ウ・29ウ・43オ
玉屑〔詩人玉屑〕	三19オ
魏略	三76オ
金門歳節	岩五24オ
く 俱舍	一55ウ, 四1ウ
俱舍雹論	一55ウ
俱舍論	五2オ
公羊伝	三2ウ
郡国志	二8オ
郡志〔蘇州郡志〕	九31オ・32ウ
群書備考	一20オ
軍斗枢	三44ウ
け 荊州記(盛弘之)	三46ウ
稽神録	三70オ
荊楚歳時記	一28オ, 五17ウ, 六44ウ, 岩五10オ・22ウ
景德伝灯録→伝灯録	
家語(孔子)〔孔子家語〕	一25ウ, 三39ウ・40ウ
花嚴経〔華嚴経〕	一51オ, 五34ウ・35オ, 六39オ, 十14オ
月令(崔寔)	岩五45ウ
月令章句(蔡邕)	五55オ, 六17ウ
源氏ノ巻〔源氏物語〕	五12ウ
劔南集	二53オ
劔南統稿	二53オ
源流至命	七54ウ
源流至論	七54ウ
こ 広韻	五73オ, 七28ウ・29ウ
広雅	二11ウ, 三46ウ
広記〔太平広記〕	六29ウ, 九45ウ
孝経	二65オ, 六24オ, 岩五18オ・37ウ
孝経緯	岩五18オ・37ウ
孔子家語→家語	
孔子六帖	三59ウ
杭州図経	三71ウ
高僧伝	十28ウ

孔白六帖	三60オ, 九46オ
洪範五行伝	一59オ
効顰集	九3ウ
香奩集	三24オ
呉越春秋	三4ウ
後燕録	二38ウ・39オ
後漢書	二87オ, 五17ウ・18オ・18ウ・19オ, 六19ウ・42ウ
五経通義	三2オ
五経要義	四2ウ・19オ
古今韻会举要→韻会	
古今注(崔豹)	二83オ
古今通論	四1ウ
国語	二75オ
国史	一52ウ
国史補	十16ウ
谷梁伝	一51ウ
賈山至言	二21オ
呉子	二57ウ
古史考(子由)	二100オ
胡曾詩	二75ウ・76オ
五灯録	七47オ
古文→古文真宝	
古文真宝	一33オ, 二8オ・13オ・33ウ・46オ・58オ・68ウ・74ウ・86ウ, 三68ウ, 五2オ・62オ, 七1ウ・41ウ・八4オ・9オ・9ウ・12オ, 九21オ, 十28オ
呉録(張勃)	三46ウ
後録(漢ノ劉向)	五25ウ
金剛經	一54オ, 十28オ
さ 歳華記	岩五2ウ
歳記→歳時記	
歳時記	一27ウ, 三23オ, 五17ウ, 岩五3オ・13ウ・41オ
才子伝	二98オ
左氏春秋→左伝	
左伝	一2ウ・18オ・18ウ・21オ・34オ・39オ, 二35オ・35ウ・54ウ・ 55オ・55ウ・56オ・57オ・59ウ, 三23ウ・37オ・40オ・66ウ・73 オ, 四6オ・19オ・19ウ, 五48オ・55ウ・70ウ, 六6オ・12ウ・21 ウ・25ウ・37ウ・38オ・39オ・42オ, 七32ウ・61オ, 八2ウ, 九 46ウ・58ウ, 十4オ・4ウ・5ウ・6オ, 岩五4ウ・5ウ
左伝集解(杜預)	九61オ
山海經	三5ウ・30ウ
(山)谷詩注	二87オ, 五71オ・71ウ
山谷外集	七27ウ
三国志	二42オ, 七56オ

三秦記	三61ウ
三体(詩)	一1ウ・11オ・12ウ・13ウ・14ウ・15ウ・18オ・26オ・30オ・36オ・37オ・49オ, 二3ウ・9ウ・18ウ・30ウ・32ウ・33オ・45オ・46ウ・55オ・90オ・101オ・102ウ・103オ, 三2ウ・21オ・22オ・36オ・66オ・69オ・82オ, 四3ウ・4オ・11ウ・23ウ, 五9オ・13オ・31ウ・39オ・39ウ・44オ・57オ・68ウ, 六22オ・28ウ・38ウ, 七9オ・11ウ・45オ・48オ・49オ・58ウ, 八8ウ・12オ・20オ・25オ・33ウ, 九7ウ・13オ・15オ・24オ・25ウ・26ウ・27ウ・29ウ・41オ・42オ・55オ・58ウ, 十17オ・30オ・31オ・33ウ, 岩五4ウ・13オ・20オ・24オ・25オ・34オ
三体抄(桃源)	五39ウ, 六28ウ
山堂考索	十6ウ
三峯述征記	三6ウ
三輔黄図	十1ウ・2オ
三輔次録	十2オ
纂要→四時纂要	
三略	二40ウ, 岩五47オ
三礼	五45ウ
三礼図	五52オ
し 詩苑叢珠	五16ウ・21ウ
爾雅	二12オ・51オ・53ウ, 三53オ・57オ・66オ, 五55オ, 七16オ・37ウ・56オ, 八1オ
詩格→聯珠詩格	
史学提要	一43オ
史記	一19オ, 二10ウ・34ウ・40オ・62ウ・74ウ・99オ, 三3ウ・8オ・30ウ・47ウ・48オ・72ウ, 四12オ・22ウ・24ウ, 五7オ・29ウ・44ウ・53オ・55ウ・57オ・69オ・76オ, 六20オ・25ウ, 七11ウ・16オ・23オ・23ウ・40オ・45オ・46オ, 八2ウ・10ウ・15オ・16オ・23オ, 九3ウ・16ウ・52ウ・53ウ, 十6オ・7ウ・33オ, 岩五26オ
四時纂要(梁元帝)	五1ウ・24ウ・45ウ, 六17ウ
資治通鑑	二80オ
資治通鑑綱目集覽→通鑑綱目集覽	
字書	二17ウ・29ウ・100オ
七千蔵経	七47オ
詩評	四20オ
事物紀原	十16オ
事文類聚	五22ウ, 七7ウ, 九2ウ・36オ, 岩五31オ
釈氏資鑑	一28ウ
釈名	一47ウ, 二14オ・33オ・59オ, 三1オ・76オ, 四19オ
煮笋経	三17オ
拾遺記(王子年)	一57オ, 二12オ, 三42ウ・43オ・79オ
十王経	四24オ

宗鑑録→宗鏡録	
宗鏡録	七57オ・57ウ
十九史略	四12オ
十七史	二80オ
十洲記	一51オ, 三28ウ・67オ・82オ
十八史略	四12オ
聚分韻〔略〕	五19ウ
周礼	一14ウ, 二100オ, 三44オ, 五52ウ, 六45ウ, 七12ウ・13オ, 岩五19ウ・22ウ・29ウ
十六国春秋	二39オ
春庵雜録	五74ウ
荀子	三21オ・21ウ・24ウ・44オ・72ウ
春秋	十4オ・6オ
春秋後語	二35オ
春秋後伝	二35オ
春明退朝録	九10オ
書	六27オ
紹運図	二102オ, 七21オ・49オ, 九32オ, 岩五33ウ
笑海	八13ウ
貞観政要	七18オ
湘州記	八32ウ
尚書	一32ウ, 二25オ・66ウ・92オ, 三6ウ・28ウ・39ウ・42オ・43オ・81ウ, 五24オ・46オ・58オ・60オ・64オ, 六36ウ・42オ・43オ, 八5オ, 九29オ・39ウ・59ウ, 岩五6オ
尚書中候	三53オ
承詔録→開成承詔録	
襄陽耆旧伝	七6オ
升楼記(王元之)	九42オ
粧楼記	岩五34オ
初学記	二48ウ・49オ, 五71オ
女儀(崔浩)	六26ウ
蜀志→三国志	
女史	六26ウ
女箴	六26ウ
女則	六26ウ
女論語	六26ウ
志林	岩五28オ
事林広記	二41オ
神異記	一57オ・59オ, 三72オ・79オ
臣軌	七18オ
晋春秋	十5オ
新書(賈誼)	二81オ
晋書	二61オ・62オ・62ウ・102オ, 五9オ, 七17オ

	神書	二83オ
	神仙伝	三30オ
	秦中歳時記	岩五27オ
	尋龍秘要集	四16オ
	新林	七37ウ
	新論(桓譚)	九52ウ
す	瑞応図	一50オ
	水経(注)(酈道元)	三42オ・44オ, 五47オ
	水志(徐筠)	十2ウ
	図絵宝鑑	二31ウ
	図画見聞志	二31ウ
	図記	六18ウ
せ	西域泥波羅	七18オ
	西京雜記	五54ウ, 七13ウ, 岩五33ウ
	青箱記録	十3オ
	齊人月令	五19オ
	正宗贊	五41オ
	齊地理記	二48オ
	石門文字禪(洪覺範)	三17オ, 七41ウ
	石林燕語	三71オ
	世説〔世説新語〕	一39オ, 三10オ, 七7オ・8ウ
	説苑(劉向)	九28ウ
	説文〔説文解字〕	二14オ・14ウ・27オ・91オ, 三46ウ, 五44ウ, 七1オ・42オ
	前漢書(班固)	二15ウ・71ウ・97ウ, 四12オ, 五46オ, 八4オ・7オ・9オ, *「漢書」を参照
	千金方(孫思邈)	二43オ
	千字文	一49ウ, 四9ウ, 五48ウ, 七47オ, 八6ウ, 九10ウ
	宣和画譜	二31ウ, 七41ウ
そ	宋紀	二14ウ
	宋景濂(文)集〔宋濂〕	一14ウ, 二99ウ, 五6ウ, 八24オ, 岩五32ウ
	宋史	岩五29オ
	莊子	一12オ・19オ・21オ・37ウ・57ウ, 三28ウ・29ウ・31オ・79ウ, 六42オ, 七9オ・19ウ・28ウ・60ウ, 九39オ・45オ・59オ
	宋書	七35オ
	搜神記	一52ウ
	蔵叟摘藁→摘藁	
	僧宝伝	七33オ
	続漢志	岩五28ウ
	続漢書	五17オ
	続齊諧記	岩五12オ
	続搜神記	一52ウ
	楚辞	八5ウ・7ウ・23オ・23ウ, 岩五44オ
	蘇州郡志→郡志	

	素書	二40ウ、岩五47オ
	楚帖	岩五49オ
	祖庭事苑	四2ウ
	孫子(孫臏)	三8ウ、七42オ
	尊頂法論	二77オ
た	大学	五61オ
	大恵武庫〔大慧普覚禅師宗門武庫〕	九61ウ
	大玄経	二94ウ
	大光明蔵	一6ウ
	太子伝	四16オ
	大乘経	一6ウ
	大戴礼	一47ウ・一50オ
	大般若〔波羅密多経〕	一54オ、三29オ、四1ウ
	太平寰宇記→寰宇記	
	太平記	二100オ、四24オ、九6ウ、九20オ
	太平御覧	一28オ、六37オ
	太平広記→広記	
	大明録	二41オ・67オ
	卓異記	五4ウ
	澹居稿	四23オ
	丹陽集	岩五23オ
ち	茶経	三17オ
	中興詩→中興禅林風月集	
	中興禅林風月集	一5オ、三76オ、五60オ
	中州集	一28ウ、六9オ、七54オ
	中峯広録	三65オ
	中庸	五61オ
	苕溪漁隱叢話→漁隱叢話	
	朝野僉載	二49オ、岩五15オ
	地理志	二83ウ
	(陳簡斎詩)注	五57ウ
	陳留耆旧伝	七6オ
つ	通鑑	二57オ・80オ、*「資治通鑑」を参照
	通鑑綱目集覧〔資治通鑑綱目集覧〕	七43オ・50オ
	通鑑集覧→通鑑綱目集覧	
	通典	七56ウ・57オ
て	帝王世紀	六44オ
	帝紀	一56オ
	帝範	七18オ
	提要録	岩五40オ
	貞和集	七41オ・46ウ
	摘藁(珍藏叟)〔蔵叟摘藁〕	九3ウ
	輟耕録	七1ウ

	天香集	四23オ
	天台本末ノ書	十14ウ
	伝広普聯統五灯ノ録→五灯会元	
	伝志	二92オ
	伝灯録〔景德伝燈録〕	九42ウ, 十20オ
	天宝遺事	五6オ・9オ
と	杜詩ノ注	二60ウ・61オ
	杜(カ)本	二60ウ, 五31ウ, 七52オ
	唐韻	五30オ
	洞院瑣碎録	九16オ
	陶淵明カ集	五24ウ
	東観漢記	二71オ
	董助聞俗	岩五9ウ
	東京夢華録→夢華録	
	東山外集	一15オ
	唐歳時記	岩五27オ
	唐書	七50オ, 九10オ
	道德経	二67オ, 九34オ
	(東)坡(カ)集	三28ウ・51ウ
	洞冥記	一50ウ
	兔塵集	七30ウ
	杜陽雜編	三72オ
な	内伝	二24オ, 三29オ
	南越志	二12オ
に	仁王経	一18ウ, 五76ウ, 岩五42オ
	日本紀	二82ウ, 六13オ, 九15ウ・29オ
ね	涅槃経	三42ウ, 十19ウ・20オ
は	排韻〔新編排韻氏族大全〕	一16ウ, 二49ウ・71オ, 三24オ・54ウ, 五50オ・71ウ, 七5オ・7ウ・8オ・17ウ・56オ, 八9ウ, 九27ウ, 十5ウ・6ウ
	梅溪文集	十30オ
	白玉蟾カ集	二17オ
	白氏文集(白楽天カ集)	三16ウ, 五24オ
	白氏六帖	三59ウ
	博物志(張華)	二12オ, 三20ウ・28オ・61ウ・71オ, 七21ウ, 九52ウ
	半山集	岩五4ウ
ひ	埤雅	六37オ
	筆削記〔起信論疏筆削記〕	十6オ
	筆談(沈存中)〔夢溪筆談〕	一48オ・一51ウ
	白虎通	三44オ, 五19オ, 九14ウ
	百川学海	一12ウ, 九60ウ, 岩五49オ
	百丈ノ清規	十1ウ
ふ	風雅集	一42ウ・43オ・44ウ, 六41オ, 七54オ
	風俗記(周処)	二33ウ

風俗通	二16ウ, 三46ウ, 七42オ, 十1ウ, 岩五29ウ
風土記(周処)	二33ウ・43ウ, 五46ウ, 岩五40ウ
仏法金湯編	二84ウ, 七4ウ
物理論	三71オ
文献通考	三38ウ, 七39ウ
文昌雜録	五18オ
文選	一18オ・40ウ, 二15ウ, 三57オ, 四5ウ, 五9ウ・31オ・49ウ・50ウ・55ウ, 七21オ・23オ・51ウ, 八6オ・11ウ
へ 平家物語	二34ウ・100ウ, 五7ウ, 六10ウ
兵書七書	二57ウ, 七42オ
碧岩(録)	一12ウ, 二33ウ, 三1ウ・7オ・23オ・65オ・67ウ, 六25ウ, 七2ウ・55オ, 九20オ・43オ, 十16オ
ほ 法花経・法華経	一30ウ・37オ・50ウ, 三19ウ・43オ・82ウ, 五65ウ, 七6オ・44オ, 八5ウ, 九2オ・14ウ・26オ・42オ・43ウ, 十13ウ・岩五32ウ・48オ
方言	八7ウ
方丈記	十17オ
彭乘記	九31ウ
鮑胎法	二12オ
抱朴子(葛稚川)	二42ウ・43オ, 三76ウ, 岩五41ウ
方輿勝覧	一20ウ, 二41ウ, 三25ウ・39ウ・56オ, 七41オ・57ウ, 九32オ
北?文集	三23オ, 五52オ
北禅ノ日件〔北禅日件録〕	四20ウ, 五24ウ
北史	五5ウ
穆天子伝	三43ウ
蒲室集	二50ウ
蒲室ノ疏	二84オ, 四7オ, 八32ウ, 九16ウ
本草	七22ウ
梵網経	一6オ, 二60オ, 九22ウ, 十21オ・29オ
む 夢華録〔東京夢華録〕	岩五21ウ
夢溪筆談→筆談	
め 名義集〔翻訳名義集〕	五56オ, 十14ウ
も 蒙求	一27ウ・53オ・54オ, 二35オ・37ウ・38ウ・91ウ, 三18ウ, 六10オ, 七7オ・19オ, 九52ウ・61オ, 岩五51オ
毛詩・毛伝	一21ウ・24ウ・25ウ・53オ・60オ, 三9ウ・53オ・54ウ・66ウ・79オ, 四10ウ・14ウ, 五4オ・29ウ・49オ・60ウ・63オ・69ウ・76ウ, 六14ウ・39オ, 七10オ・13ウ・23オ・30オ・58オ, 八1ウ・18オ・22ウ・23ウ, 九9オ・24オ, 岩五25オ
孟子	一26オ・38オ, 三4オ・21ウ・24ウ・25オ, 五12オ, 十10オ, 岩五6ウ
文字禅→石門文字禅	
ゆ 維摩経	十14オ・21ウ
幽怪録	一59オ

よ	容斎随筆	一17ウ
	揚子	八7オ
	揚州記	三46ウ
	雍洛靈異小録	岩五13ウ
	豫章記	七25オ
	輿地志	七57ウ
ら	楽邦文集	五7ウ
	蘿山集(宋景濂)	四1ウ, *「宋景濂集」を参照
り	律曆志	五3オ
	李白カ詩集	三1オ
	李白カ集	二52ウ
	李白カ文集	三69オ
	劉公嘉話	七17ウ
	劉史	二22ウ・68ウ
	柳文(柳子厚)	三29ウ・53ウ
	楞嚴經	六33ウ
	臨安志	三34ウ
	倫断橋ノ集ノ疏	七33オ
れ	礼記	一5オ・5ウ, 二1オ・1ウ・5オ・21オ・67ウ, 三60オ・78ウ, 四6ウ, 五1オ・4オ・8オ・9ウ・18オ・19ウ・29ウ・37オ・44ウ・55オ・55ウ・68ウ・71オ・76オ, 六3オ・17ウ・20オ・34オ, 六37ウ・39オ, 七3オ・6ウ, 七10オ・40ウ, 八1オ・5オ・22オ・23オ・24ウ, 九15オ・55オ, 十4ウ・8ウ, 岩五17ウ・18オ・18ウ・20ウ・21オ・36オ・45ウ
	嶺表異録	三76ウ
	零陵志	三73ウ
	曆記	岩五44ウ
	列子	一18ウ, 二14ウ, 三1ウ・三29ウ, 四2ウ, 七6ウ・七29ウ, 九2オ・九59オ, 十19オ, 岩五7ウ
	列女伝	一19オ, 二72ウ・74ウ
	輦下歳時記	一28オ, 五17ウ, 岩五30ウ
	聯珠詩格	五36ウ・51オ, 六9ウ, 九53ウ
ろ	朗詠集	二76オ
	老子経	二40ウ, 三53オ, 四4ウ, 八26オ, 九33オ・33ウ・35ウ
	六帖	三16オ・16ウ・59ウ・71ウ, 六43ウ, 十12ウ, 岩五26ウ・27オ
	六韜	二85オ, 四3ウ, 七39オ
	六物ノ図	二77ウ・七13オ
	六諭経	一54オ
	呂氏春秋	二94ウ, 三20オ, 八30オ, 十3ウ・6オ
	論語	一18ウ・22ウ・36オ, 二17ウ・30オ・40ウ・55オ, 三74オ, 五37オ, 六7ウ・8オ・13オ・14オ, 七6ウ・60ウ, 八6ウ・10ウ, 十4ウ・11オ, 岩五48ウ
	論衡(王充)	一52オ・三34オ